

1 自己評価(外部評価は緩和適用年度であるため不要)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196500415
法人名	社会福祉法人 潤青会
事業所名	グループホームとさわの家
所在地	さいたま市浦和区常盤7-5-14
自己評価作成日	令和8年3月24日
	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

訪問看護や訪問診療との連携を深めて緊急時にもすぐに対応している。
行事やレクリエーションの時間を増やして入所者様と、職員が一緒に楽しめるように行事委員を中心に工夫している。
地域との連携を深めて交流の場としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	53	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	54	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	55	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		



自己評価および外部評価結果

自己評価		外部	
項目		項目	
自己評価		外部	
実践状況		実践状況	
I.理念に基づく運営			
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつまでも自分らしく生活していただくために。」の理念を掲げ職員にも伝えている。毎月ユニットごとに目標を立てユニット会議、運営会議で問題点や反省点を明らかにし、話し合いを行っている。	
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや子供神輿が施設の前に来て、入所者はとても喜んでいった。何年振りかで御神輿を觀れてよかった。との感想だった。地域との交流をもっと深めたい。今後も地域の行事に参加し、地域の方が施設に入ってもらえるような企画を立てたい。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にも認知症について理解して頂き、交流する機会を増やしていきたい。	
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域資源など会議の中で意見を出し合い、今後取り組みたいことを話し合った。	
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	加算算定、協力医療機関の届出を行う際に窓口の職員と話す機会を作った。運営推進委員会への参加も促した。	
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い職員には身体拘束をしないように伝え、理解をしてもらっている。動画を使って、どのようなケースが身体拘束に繋がるかを説明した理解を促した。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないようによう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルなどを閲覧できるようにし、研修を行っている。高齢者虐待にあたるケースがどのようなものかわかりやすい動画で見てもらい理解を促した。	

外部		項目	自己評価 実態状況
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		職員には成年後見制度について学ぶ機会を作っている。後見人さんにごまでのことをお願いできるかについて理解し、家族にも活用が必要であるとされた時には説明できるようにする。
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		契約内容について十分時間をかけて説明し理解を頂いている。
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		ご家族の意見や要望を取り入れやすくするためご意見箱を設置したり、面会時にご家族のご意向をお聞きするようにしている。また職員にはご家族からのご意向を周知するよう努め散る。推進会議でも参加者にお伝えしている。
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		毎月ユニット会議を開催し意見や提案の場を作っている。職員からの意見を反映させてより良い職場環境を整えている。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		施設長会議の場で法人内の施設運営状況を報告し職員の意見や要望を伝えている。また職員が定着するように福利厚生を充実させて頂いている。
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		毎月研修を行って研修記録を提出してもらっている。外部から講師をお呼びして研修を行い地域の方と交流しながらの研修も行っている。
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		法人内でお互いの職場見学や意見交換などの場を作り交流を行っている。また地域の同業者の方とも研修を通じて話す機会を得ている。

自己評価 実践状況	
外部 Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	
15 ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	入所したての頃は帰宅願望や不安で落ち着きがない方が多いです。傾聴してどうされたいのかお尋ねし、家族と連絡したい場合はすぐに連絡を取れるようにしている。
16 ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	家族の要望を聞き入れ電話や、メールでも連絡をれるようにしている。本人の様子も伝えて安心して頂いている。
17 ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みから契約の段階で当施設で出来ることを説明し家族が必要としていることを伝えられるように対応している。
18 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアを行うにあたって、職員が支持するのではなくお誘いする声掛けをするように心掛けている。
19 ○本人を支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員本位のケアを行わず家族の意見、本人の意見を受け入れ常に相談話し合いながら支援していくようにしている。
20 (8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけではなく馴染みの方との交流が途絶えないように面会、外出、通信手段を使ってコミュニケーションを取れるようにしている。ただし外部から見知らぬ方からの問い合わせがあった場合や突然の訪問があった時には必ず家族の了承を得たうえで取り次いでいる。
21 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用仲間同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方々と過ごせるような食事の席の配慮や、外出時にも一緒に楽しめるように配慮している。

外部	項目	自己評価 実践状況
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人、家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族から連絡があった時には、対応をして、相談に乗っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人個人の意向や家族の意向に沿って、やりたいことをお聞きしている。職員の都合でケアを行いがちになっているため、そうではない事を職員に伝え楽しく過ごせるような工夫を行っている。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にはご本人の馴染みの物や品物を持参頂き、少しでも自宅で生活しているような雰囲気を作っていくよう努力している。入所されたからは生活歴に合わせながらユーチューブで故郷の風景を眺めたり、季節を感じるようなレクリエーションや行事を行っている。
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	部屋で休みたい、フロアでみんなと一緒にしゃべりたい、等個人個人それぞれ違うので意向に合わせて過ごして頂いている。 家事の手伝いをしていただき、役に立っていると実感して頂いている。
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアについて月1回のユニット会議で話し合って検討している。家族やご本人の意向に沿ってケアプランを作成しモニタリングを行っている。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの記録は職員が残っており、気づきなどあれば主任へ報告し、ユニット会議の課題とし検討している。
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに扱われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員でアイデアを出しながらご本人が楽しめるような企画やサービスの見直しをしている。

自己評価 実践状況	
外部	項目
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>
30	<p>(11) ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>
31	<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>
33	<p>(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的にを行い、実践力を身に付けている</p>
35	<p>(13) ○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>
	<p>民生委員さんからの話 今は一人で丁目の地域を担当している。老夫婦で暮らしている世帯や一人暮らしの世帯を回っているが、実際のどのような生活しているかを理解するのは難しい。困っていれば包括に連絡をして、カービズを入れてもらうなど連携は取れて助かっている。この辺は一軒家が多いので訪問しやすい。このこと、施設で地域資源を探し利用するのは難しいが、施設を開放する機会を作って地域住民を取り入れることも今後積極的に行っていきたい。地域のイベントには参加していきたい。</p>
	<p>訪問看護を利用し、週に1回体調観察を行っています。問題があれば医師と連携を取って速やかに対応を行っています。</p>
	<p>担当医と連携して入退院時に情報共有を行っている。 また、退院時には入院先のソーシャルワーカーと協力して施設へ戻れるかを判断し、家族や往診医に情報共有を行い受け入れ態勢を万全にできるよう努めている。医療的措置が多く施設での生活が困難となった場合にもソーシャルワーカーと情報共有を行って受け入れ先を探すことに協力している。</p>
	<p>入所時には終末期に関する説明を行い、できる限り施設で生活をしていただき、緊急時の対応については家族に説明し承諾を得ている。また体調の変化があった時には家族、担当医と今後の方針について随時話し合っている。</p>
	<p>緊急時の対応についての研修を行い、職員の理解を深めている。また事故発生時にはその都度事故の検証を行い、今後の対応について話し合っている。</p>
	<p>7丁目の避難訓練に住民と一緒に職員が参加することで、地域の避難所を確認することで防災意識も高まる。また施設の避難訓練にも参加をしていただき地域住民との助け合いもできるようにしたい。</p>

外部		項目	自己評価 実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳とプライバシーを確保するため職員に対処研修を行う、ユニット会議においても常に意識を高めるようにしている。声かけや言葉かけについては特に注意するよう職員には注意している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が悪いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促すような、声掛けをするように心掛けている。また生活歴のなかで思いや希望があるものは取り入れている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合になりがちなので、どのように過ごしたいかを観察し、ストレスなく過ごせるような環境を作っている。
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	ご自身で服を選ぶ方はお願いしている。できない場合は一緒に選んで、季節にあうような服を着ていただいている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下膳やお茶碗洗い、お盆ふきなど、積極的に手伝っていただきえるよう支援している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に合わせた支援をしている	栄養のバランスが摂れたものを提供し、その方に合った適切な水分量を提供している。嗜好のアンケートを行って、食べたいものを提供している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは歯科医師から磨き方の指導を受けて、ご自身で出来るところまでお願いした後は、仕上げは職員が行っている。

項目		自己評価 実践状況
自己 外部		
43 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が取れる方はトイレ誘導を定期的に行っている。排泄パターンによってトイレ誘導の時間を考えている。
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が3日なつたときには訪問看護による排便をお願いするか、ご本人の状況に合わせて内服の調整を行っている。牛乳を週2回以上提供している。
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイムスケジュールに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴日については職員が決めるがその日のご本人に入浴できるご気分かをお聞きしてから週2回入浴して頂いている。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の入眠の時間を把握し日々の体調を考慮しながら睡眠時間を取って頂いている。
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一包化し、投薬の間違いないようにチェック後一人一人名前を確認し内服して頂いている。
48	○役割、楽しみことの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合わせた趣味や嗜好品を聞き取り取り入れて楽しんで頂いている。食べたいものをお聞きし、レクリエーションや行事に合わせて手作りや、取り寄せを行つて楽しんで頂いている。
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、遠段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば対応しているが、入所者一人では行えない為近隣の散歩は職員が付き添っている。また家族同伴での外出は予約を取つて外出の希望に添えるようにしている。

外部		項目	自己評価 実践状況
50	自己	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ができる方は外出してコンビニ等に連れていき、支払いもご自身で行えるように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状は職員が介入して出せるようにしている。電話が来た時には取次ぎをしたり、携帯を持っている入所者は使っている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけや行事を行っている。 共有スペースの温度調節は適温に設定し、空気の入替えも定期的に行っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはテレビを置いて、YouTubeや娯楽番組、体操、故郷の景色を見て頂いたり、穏やかなBGMを取り入れなるべく一人にならないうような工夫をしています。レクリエーションの時間は共有スペースで行っている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自身の部屋であることを自覚して頂くために、馴染みの物を持ち込んで生活している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることを行って頂いたり、職員の手伝いを安全に行えるよう支援している。

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向け取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6、7	言葉使いが悪いことがある。認知症に対する理解が薄い職員がいる。	高齢者虐待のケースや身体拘束とは何かを理解できるように職員教育を行っていく。	・日常の中で、虐待に繋がると思われるケースが無いようにするため振り返りを行っていく。 ・認知症を理解できるように教育を行う	6ヶ月
2	38	職員都合のケアになっていないかを常に考えるようになしてほしい。	入所様の意向に沿ったケアを行う。	・個人個人のケアについてユニット内で検討する場合本人の意向に沿ったケアを考えらるよう に、本人が喜んだケアや、本人が落ち着いた事例を発表できるようにユニット会議を進めていく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。